

I	はじめに	2
II	概況	3
III	事業別報告	
	〈1〉友愛山荘事業	5
	〈2〉情報等発信事業	10
	1) 機関紙『友愛』の発行	
	2) 本協会ホームページの公開・更新	
	3) リーフレット『友愛とは』の配布	
	4) 小冊子『友愛理解のために』等の配布	
	〈3〉国際交流事業	12
	1) 派遣事業／ウィーンへの派遣	
	2) 受入事業／ミャンマー指導者育成プロジェクトの実施	
	3) 交流事業／(1)2014年友愛国際写真コンクールの開催	
	(2)ベトナムへの車椅子贈呈プロジェクト	
	(3)交流会議開催 ①中国国際青年交流中心	
	②北京理工大学	
	③中華全国青年連合会	
	(4)パオ・資料展示	
	〈4〉日中緑化交流基金による中国植林事業	33
	〈5〉友愛ドイツ歌曲(リート)コンクール開催事業	38
	〈6〉他団体への協力事業	44
IV	業務執行	
	〈1〉理事会開	46
	〈2〉評議員会開催	48

I はじめに

(設立)

一般財団法人日本友愛協会は、昭和28年(1953年)に結成された友愛青年同志会を母体とし、昭和34年(1959年)に財団法人日本友愛青年協会(所管文部省)として設立された。平成23年4月に一般財団法人へ組織変更し、また日本友愛協会と名称を変更して現在まで公益事業を継続している。

(目的)

日本友愛協会は、友愛の設立者鳩山一郎先生の意思を昇華発展させ、友愛社会の実現を目指し、青年及び社会人の積極的交流、人間と人間、自然と人間の共生をはかることを念願し創設された。

相互尊重・相互理解・相互扶助を三原則とする友愛を基調として、内外の青年、社会人との交流を進め、人間と人間、自然と人間との共生をはかることにより、友愛社会の実現と世界の平和に貢献することを目的としている。

(定款 全文、第3条目的より)

(公益事業)

現在、本協会は友愛社会実現のため〈1〉友愛活動の原点であり青年の研鑽の場である「軽井沢友愛山荘」の運営事業、〈2〉機関紙『友愛』の発行を始めとする情報等発信事業、〈3〉オーストリア勤労青年連盟(オーストリア国)・中華全国青年連合会(中国)等との国際交流事業、〈4〉日中緑化交流基金による中国植林事業、〈5〉友愛ドイツ歌曲コンクール開催事業、〈6〉一般財団法人東アジア共同体研究所等他団体への協力事業を行っている。

Ⅱ 概 況

平成26年度は、一般財団法人に移行して満三年を経過した年であり、友愛の理念を実践するため定款に基づき、公益目的支出計画に沿った事業を本格的に実施した年度であった。

特に国際交流を軸に新たな事業を展開し、より広く世界に友愛を発信することが出来た。

就中「2014年友愛国際写真コンクール」は、中国国際青年交流中心との永年に亘る協力が実り、世界各国から1万点に上る応募を得、成功裡に終わった。

また、軽井沢友愛山荘の運営は、友愛ホールの整備に伴い、盛況を呈し多くの方のご利用を得た。結果、事業収益は1千4百万円超という過去にない数字を記録した。

植林事業では、鳩山由紀夫理事長が参加し、本協会が継続してきた植林事業の実態をつぶさに視察、その意義を理事会に報告した。

(この植林訪中は、前年度事業分ではあるが実施を今年度に行ったため、今年度の事業報告で詳細を掲載した)

中国側の歓迎、喜びも大きく、更に日中友好の絆を深めたといえる。

業務実施にあたって要の役割を果たしている月例理事会は、本年度も滞りなく開催された。

- 〈1〉友愛山荘運営事業は、「友愛ホール」が活用され、多くの合宿、研修の利用者を得た。また、年度末にはグランドピアノが寄贈され、音楽関係者の利用増が期待される。
- 〈2〉情報発信事業においては、機関紙『友愛』の発行(529号～534号)を行った。併せてホームページ上に随時掲載した。
更新も必要に応じて随時行い、他の事業の紹介(植林事業等)の他、友愛国際写真コンクール・ドイツ歌曲コンクールなど情報発信として重要な役割を果たした。
- 〈3〉国際交流事業では、本年度より①ミャンマー指導者育成プロジェクト ②ベトナムへの車椅子贈呈プロジェクト ③2014年友愛国際写真コンクールの3事業を新たにスタートさせた。また、国際交流推進のための友好会議として、④中国国際青年交流中心 ⑤北京理工大学 ⑥中華全国青年連合会の来日を受け、その都度有益な話し合いの場を設けた。
友愛山荘に展示中のパオ(ゲル)も継続展示し、山荘を訪れる方々から好評を得た。パオ室内に、民族衣装などの展示も加え、異文化の紹介に

役立っている。

この他、植林活動の交流等の機会に贈られた中国の美術品、またミャンマー学生連盟から送られた刺繍なども展示し、本協会の国際交流活動を紹介している。

なお派遣事業においては、第25回ドイツ歌曲コンクールの優勝者照屋篤紀さんのウィーン派遣は、次年度6月に実施される。

また例年行われていたオーストリア勤労青年連盟(ÖJAB)からの派遣員受入事業は、ÖJABとの協議の結果今年度は実施せず、次年度6月以降に友好50周年記念事業の一環として実施される。

〈4〉日中緑化交流基金による中国植林事業

本年度も、昨年と同様に申請し、(1)遼寧省錦州市(第三期)、及び(2)山西省臨汾市(第三期)が承認された。併せて(3)遼寧省盤錦市のプロジェクトも承認され、昨年度に引き続き三か所の植林事業を行うこととなった。

(上記(1)、(2)、(3)事業の起工式・植林訪中団の派遣は、27年度に実施される)

〈5〉友愛ドイツ歌曲コンクール開催事業は、昨年同様第25回が開催され、応募総数57名と盛況であった。例年使用の上野奏楽堂が補修工事中のため、一次、二次予選及び本選会のすべてを文京シビック小ホールで開催したが、交通の便がよく、参加者、来場者には好評であった。

今年度は、一般財団法人ドイツ歌曲普及協会との共催を謳って開催した。本コンクールは、次回開催を一般財団法人ドイツ歌曲普及協会と完全共催で実施し、第27回以降は、一般財団法人ドイツ歌曲普及協会に実施を譲り渡す旨、理事会において決定している。

〈6〉他団体への協力事業としては、具体的な活動が実施されたのは公益社団法人日本けん玉協会のみであるが、その他の団体には、軽井沢友愛山荘宿泊時などの機会を利用し、連携を密に行っている。

以上が平成26年度の概況であるが、国際交流事業の内、①、②、③は、関係各位の協力を得、初めての事業実施ながら、大きな手応えと成果を得ることが出来た。また、好評を博したことから次年度も続けて行うことが理事会において決定している。④、⑤、⑥は、永年に亘る友好協力関係を再確認し、加えて新たな展開の企画も行われ、次年度に向けての大きな収穫となった。

Ⅲ 事業別報告

〈1〉友愛山荘運営事業

(定款第4条第1号、第2号に基づく事業)

事業概要

社会の人々への「友愛」の普及、啓発をはかり、心身の健全発達に資する場としての友愛山荘の運営を行う。一般社会に広く開放することにより、世代を越えた交流を促す。ゼミ・研修会・親睦会・合宿等の利用に適した施設を安価な利用料金にて提供する。

《1》利用状況

	延べ宿泊人数	総売上金額
平成26年度	1,788人	14,374,680円
前年比	14%増	21%増
《参考》		
平成25年度	1,563人	11,879,196円
平成24年度	1,453人	10,153,031円
平成23年度	1,242人	8,712,233円
平成22年度	1,441人	10,682,075円
平成21年度	1,316人	10,087,175円
平成20年度	1,224人	9,446,185円
平成19年度	1,016人	6,559,020円

《2》運営費用状況

人数・売上	利用人数(人)	売上総額(円)
25年度	1,563	11,879,196
26年度	1,788	14,374,680
前年比(%)	114	123

主要経費	食材仕入(円)	リネン経費(円)	燃料経費(円)	水道光熱費(円)
25年度	2,217,039	728,125	497,872	2,521,830
26年度	2,945,499	655,706	545,989	3,466,075
前年比(%)	132	90	109	137

一人当り経費	食材仕入(円)	リネン経費(円)	燃料経費(円)	水道光熱費(円)	経費計(円)
25年度	1,418	466	319	1,613	3,816
26年度	1,647	366	305	1,939	4,257
前年比(%)	116	78	95	120	111

26年度の一人当たり経費平均増減率 104%

《3》研修室をキッズルームへ改修

イ) 平成25年度の「友愛ホール」完成により、以前研修室として使われていた山荘一階、玄関ホール入って左側の部屋を、キッズルームへと改修した。

ロ) 子供たちが、自由に安全に遊べるよう床にはクッション材を敷き詰めた。また窓枠の棧、部屋に出っ張っている柱にもクッション材を当て、部屋には角がない状態に仕上げ、ぬくもりと安全性を確保した。

ハ) 大人が使っても大丈夫な程丈夫なウレタン製のトンネル、硬質ウレタン製の安全性の高い積み木、さらにパズルのようにつなぎ合わせることでできるウレタン製のパネルなどを用意した。子供の創造性を高め、自由な発想を形にしている面白さを充分楽しめるようになっている。

ニ) 友愛山荘の魅力の一つは、青々とした芝生で思い切り遊べることだが、天候の具合により外で遊べない時など、子供たちに伸び伸びと遊んで欲しいとの思いから設置に至った。

ホ) 利用に当たっては、大人の方の同室をお願いし、徹底している。



子供たちが創ったものを色々なものに見立てて遊べるよう、全ての素材を落ち着いた優しい色合いに統一した

《4》友愛ホールにグランドピアノ設置

イ) 静岡県富士宮市の加藤総一郎様・範子様ご夫妻のご好意で、グランドピアノが日本友愛協会に寄贈された。(河村典子先生紹介)

ロ) グランドピアノは友愛ホールに設置。

ハ) かねてより、音楽研修で利用の方々からグランドピアノ導入は待望されていた。

ニ) 現行のアップライトピアノは本館キッズルームに移動。友愛山荘には食堂設置のものと合わせ3台のピアノが整ったこととなる。

ホ) コンサート調律師宮沢基一先生の手で調律され、素晴らしい音色を誇っている。

ヘ) 友愛ホールでのミニコンサート、3台のピアノを活用しての音楽研修に、友愛山荘は力を発揮できる。



《5》広 報

イ) 友愛山荘紹介カードの内容を一新。

緑に囲まれた爽やかな友愛山荘イメージはそのままに、友愛ホールの写真及びユニバーサルデザイン箇所の情報を加え作成、配布。

ロ) 名刺サイズと小さい為、持ち歩きが簡便であると好評である。

ハ) 友愛山荘パンフレット増刷。関連施設等に設置、配布を依頼。



表



裏

友愛山荘利用料金表

利用料金		団体割引料金	
		5～9名	10名以上
一 般	10,000円	9,000円	8,000円
会 員	9,000円	8,000円	7,000円
学 生	8,000円	7,000円	6,000円

*お一人様の利用料金です(1泊2食付・5名まで同室/税込)

*4歳以上は学生料金適用です。

*5名以上は「団体割引」が適用されます(5名毎1部屋)

*部屋割追加料金: 1名につき1,000円増



内側

ニ) 平成25年度から引き続き、事務局のある文天ビル所有者の協力を得、同ビル入り口付近・エレベーター内・事務局入り口に友愛山荘ポスターを掲示。パンフレットを持ち帰れるようにした。

26年度は名刺サイズのパンフレットを小さなかごに入れてエレベーター内に設置した。この設置は、26年度末まで継続して行った。



エレベーター内



ビル入り口付近



事務局入り口扉



ホ) 冬季限定優待カード作成配布

晩秋から冬の期間の利用者が減少することから、本協会役員(理事・評議員・顧問・参与)及び関係各位に優待カード(名刺サイズ)を配布し、利用を促した。若干の利用は見たものの、優待カードの配布による効果は大きいとは言えない。次年度も配布を続け、利用を促すことが必要である。



表



裏

〈2〉情報等発信事業

(定款第4条第1号、第6号に基づく事業)

事業概要

機関紙『友愛』の発行、ホームページでの情報開示(事業報告等を含む)及びリーフレットの作成、配布などを通じ、本協会の実施事業、実施目的などを広く伝達し、友愛理念についての理解を深める一助とする。

1) 機関紙『友愛』の発行・配布

◆ 平成26年度機関紙『友愛』発行履歴

平成26年5月(第529号) 4,000部発行

- ・第25回理事会
- ・第7回評議員会 開催
- ・第25次植林訪中団報告… 理事長 鳩山由紀夫
常務理事 川手正一郎
- ・ウィーン研修を終えて

平成26年7月(第530号) 4,000部発行

- ・第27回理事会
- ・第8回定時評議員会 開催
- ・友愛国際写真コンクール募集開始
- ・ミャンマー指導者育成プロジェクト
- ・枯れ葉剤被害者の子供たちに車椅子を… 理事長 鳩山由紀夫

平成26年9月(第531号) 4,000部発行

- ・国際交流事業 活発に進展
- ・軽井沢友愛山荘 盛況報告
- ・ミャンマー指導者育成プロジェクト 経過報告

平成26年11月(第532号) 4,000部発行

- ・第25回友愛ドイツ歌曲コンクール本選会出演者決定
- ・車椅子贈呈式 ベトナム… 理事長 鳩山由紀夫
- ・ミャンマー指導者育成プロジェクト 研修報告
- ・軽井沢友愛山荘 馬頭琴演奏会開催

平成27年1月(第533号) 4,000部発行

- ・巻頭言 理事長 鳩山由紀夫
- ・第25回友愛ドイツ歌曲コンクール本選会結果発表
- ・友愛国際写真コンクール表彰式開催 附録 受賞作品紹介

平成27年3月(第534号) 4,000部発行

- ・軽井沢友愛山荘受付開始
- ・故鳩山安子名誉会長三年祭報告
- ・ミャンマーからの写真報告
- ・中華全国青年連合会訪日団一行来訪

◆ 配 布

会員・及び関係各位団体等 : 1,352箇所へ郵便
(参考前年度 1,367箇所)

また、軽井沢友愛山荘、鳩山会館等関係各所にて配布している。

関係団体へ送付し、配布を依頼。

海外関係先へ送付、配布依頼(中国国際青年交流中心等)。

2) 本協会ホームページの公開・更新

・随時ホームページを更新した。写真を多用し、「見て解る」活動内容の掲示に努めた。

・友愛山荘利用者、友愛ドイツ歌曲コンクール参加者に対して多大な情報発信効果が認められた。

・特に、本年度が初となった「2014年友愛国際写真コンクール」は、すべてインターネットを利用した応募、人気投票であったため、ホームページが大いに活用された。

・機関紙『友愛』バックナンバー(第1号～最新号[534号])の掲示が完了しており、『友愛』発行毎に更新が行われている。

ホームページアドレス <http://yuaikyoukai.com>

メールアドレス yuai@yuaikyoukai.com

3) リーフレット『友愛とは』の配布

入会希望者等に郵送及び、東京事務所、鳩山会館等で配布した。
植林訪中時に持参、中国の学生に配布した。

4) 友愛解説冊子『友愛理解のために』、卓話記録『道は邇しといえども行かざれば至らず』の配布

希望者に郵送及び、東京事務所等で配布した。
植林訪中時に持参、中国の学生に配布した。

〈3〉国際交流事業

(定款第4条第3号、第5号、第6号に基づく事業)

1) 派遣事業／ウィーンへの派遣

事業概要

- ・本協会が開催する友愛ドイツ歌曲(リート)コンクール第1位受賞者をウィーンに派遣し、姉妹団体オーストリア勤労青年連盟(ÖJAB)主催の演奏会に出演させ、芸術活動を通じた日奥交換を実現する。
- ・ウィーンへの渡航費用を本協会が負担し、さらにオーストリア勤労青年連盟(ÖJAB)の協力を以って、滞在期間全8日間の宿泊場所、ドイツ歌曲のレッスン、音楽会への出演の機会を提供する。

イ) 派遣者

照屋篤紀

武蔵野音楽大学声楽科卒業。武蔵野音楽大学大学院修士課程修了。平成26年度文部科学大臣賞・第25回友愛ドイツ歌曲コンクール優勝。日本R.シュトラウス協会賞及び聴衆者賞受賞。

ロ) 滞在期間

平成27年6月21日～6月28日

ハ) 実施内容

平成27年6月23日

アントニオ・ヴィヴァルディホールにてオーストリア勤労青年連盟主催の音楽会に出演。

平成26年度事業ではあるが、実施は27年に実施される、「ÖJAB・友愛友好締結50周年記念」の事業の一環として開催される。

ニ) 協力機関

姉妹団体：オーストリア勤労青年連盟 (ÖJAB)

※ウィーン滞在中の宿泊先を提供

2) 受入事業／ミャンマー指導者育成プロジェクトの実施

事業概要

アウンサンスーチー議長より依頼を受け、友愛の理念のもと、「全ビルマ学生連盟外交委員会日本」と「ミャンマーニューリーダーを育成する会」と協力し、NLD(国民民主連盟)から派遣された研修生に、ミャンマー発展に資する指導者としての必要な研修の場を与え、その活動を支援するものである。

事業目的

ミャンマーの主たる産業が農業であることから、農業に関する知識、技術を日本の文化や考え方、生活に触れながら学ぶ機会を設けること。

研修後は自国において、日本で学んだことを伝え実践するよう努める。

研修を通して日本について理解してもらい、今後のミャンマーとの友好関係を緊密なものにする役割を担ってもらう。

研修生： サン・マウン(1955年10月25日生)

ウィン・ナイン(1964年1月7日生)

期間： 平成26年7月4日～9月30日

研修内容：

7月 4日(金) 成田空港到着

7月11日(金)～17日(木)

農業法人コスモス 北海道上川郡清水町御影

- ・肉牛用子牛の哺育
- ・国際農業機械展見学

7月18日(金)～31日(木)

北海道ホープランド 北海道中川郡幕別町相川

- ・野菜の収穫、成形、出荷作業
- ・十勝農業試験場、北海道農業大学他、施設見学

8月 1日(金)～7日(木)

宿泊施設「ひまわり」 北海道空知郡上富良野町

- ・花の手入れ、野菜収穫体験
- ・JAの麦の乾燥施設、農産物加工工場施設等の見学

8月11日(金)～26日(火)

友愛山荘 長野県軽井沢町

- ・接客体験
- ・農協、農家、水田見学等

8月27日(水)～28日(木)

公益財団法人オイスカ中部日本研修センター 愛知県豊田市勘八町

- ・研修施設等の見学、トマトのハウス栽培見学、研修
- ・オイスカのマンマーで実施しているプロジェクト等の説明

9月 1日(月)～3日(水)

新潟県小千谷市片貝町

- ・越後おぢや農業協同組合にて組織の概要、金融などの業務について米生産の違いについての意見交換
- ・農協の支店が運営する車の検査工場、スーパー、ガソリンスタンド見学
- ・新潟農業総合研究所(長岡市長倉町)にて、米についての研修、水田見学
- ・長岡地域振興局農業普及指導センターにて、若い農業従事者への指導や普及活動について
- ・無農薬米の水田見学、農協を通さない生産販売について

9月 9日(火)

栃木県日光市

- ・農業組合法人日光アグリサービス(日光市芹沼)農家が土地を借り同耕作する栽培システムについて
- ・米の加工について(日本酒の蔵元、おかき工場の見学)

9月10日(水)

農林水産業研究センター 茨城県つくば市

- ・センターで行っている水稻研究について
- ・稲の病気、予防研究等について

9月25日(木)

J A日野南

9月26日(金)

日本友愛協会事務局 理事会への訪問

9月30日(火) 成田空港出発

※その他、皇居見学、公立小学校見学、国立科学博物館見学等も行った

研修結果：

各関係機関、関係者の方々には多大なるご尽力とご配慮をいただいた。
農業に関する様々な研究をしている方や事業の担当者から、研究内容や仕事についての説明を受け、意見交換する機会を数多く持つことが出来た。
言葉では言い表すことが出来ないほど、貴重な体験をした。そして、とても励まされ自分たちも頑張ろうと思った。などの感想の一方、研修について事前に知らせてほしい、またそれに見合った人選をしてほしい。との意見もあった
米、野菜の種まきから収穫までの研修を望んでいたが、米の場合六ヶ月以上を要するため、短期間のビザでは実現が難しいこと。
短期間での日本語習得は難しく、英語に堪能な人材を派遣してもらったほうが双方にとって効率が良いのではないかと。
などの問題点もあがった。
本事業は今年度が初めての実施であり、次年度からの継続実施に備えた研修内容となった。これにより、要望が絞られることとなり、今年度の研修実施は有効であったといえる。
国際交流の一環として、次年度も「ミャンマー指導者育成プロジェクト」を継続し、実施していく予定である。
より効率的で、ミャンマーの方々が必要としている内容を習得できる研修の方法を求めて、計画が進められている。

အမျိုးသားဒီမိုကရေစီအဖွဲ့ချုပ် တောင်သူလယ်သမားရေးရာကော်မတီဝင်များ၏
ဂျပန်နိုင်ငံလေ့လာရေးခရီးအတွက်
ဒေါ်အောင်ဆန်းစုကြည်၏ နှုတ်ခွန်းဆက်လွှာ

၂၀၁၄ ခုနှစ်၊ ဇွန်လ (၂၈) ရက်

ဂျပန်လူမှုအဖွဲ့အစည်းတစ်ခုဖြစ်တဲ့ Japan YUAI Association (JYA) ရဲ့အကူအညီနဲ့ ဖိတ်ခေါ်ပေးကြောင့် ကျွန်မတို့ အချို့သားဒါးခိုကရေဒီအဖွဲ့ချုပ်၊ တောင်သူလယ်သမားရေးရာကော်မတီ ရဲ့အဖွဲ့ဝင်တွေဖြစ်တဲ့ ဦးဝင်းနိုင်နဲ့ ဦးစိုးမောင်တို့ဟာ ဂျပန်နိုင်ငံက လယ်ယာလုပ်ငန်းတွေကို လေ့လာခွင့်ရကြမှာဖြစ်တဲ့အတွက် ကျွန်မအနေနဲ့ ဝမ်းသာမိပါဘူး။

အားလုံးသုံးကြွေအတိုင်း၊ ကျွန်မတို့တိုင်းပြည်ဟာ စိုက်ပျိုးရေးနိုင်ငံဖြစ်တဲ့အလျောက် လယ်ယာလုပ်ငန်းပဲ အဓိကထား လုပ်ကိုင်ကြရတာပဲ။ တိုင်းပြည်ရဲ့ အခြေခံဗျားရေးကဏ္ဍတွေ မယ့် ငြီးမထွန်ဟောင်း လယ်ယာကဏ္ဍကို ဆက်ပြီးအားထားရမယ့်ဟုပဲ။ အဲဒါကြောင့် ဂျပန်နိုင်ငံလို ဖွံ့ဖြိုးနိုင်ငံတစ်ခုရဲ့ လယ်ယာကဏ္ဍကို လေ့လာရတာဟာ စိတ်ဝင်စားဖွယ်ဖြစ်ပြီး အကျိုးရှိမယလို့ ယုံကြည်ပါတယ်။

ကျွန်မတို့နိုင်ငံရဲ့ လက်ရှိအခြေအနေအနေ၊ ဂျပန်နိုင်ငံရဲ့ စီးပွားရေးဖွံ့ဖြိုးမှုအခြေအနေတွေဟာ ကွာခြားလှတဲ့အတွက် လယ်ယာကဏ္ဍမှာလည်း ဂျပန်ရဲ့နည်းပညာတွေကို ပုံတူဘာမှယူရုံ ကပ်စဲနေ အံ့မှာပါ။ ဒါပေမဲ့ ကျွန်မတို့တိုင်ပြည်ရဲ့ တစ်ပြေးနိုင်ငံတွေမှာမရှိသလို အားသာချက်တွေကို အသုံးပြုဖို့ လယ်ယာလုပ်ငန်းကို အခြေခံဆုံး ၅ ပြိုင်ဘက်တင်အောင်ကြိုးစားရမှာပါ။ ကျွန်မတို့အနေ လွတ်လပ်တဲ့ ကိုယ်စားလှယ်တွေလည်းကောင်း ကိုယ်တိုင်ပြည်ရဲ့ သမားတစ်ဦးမို့ နည်းပညာတွေ၊ စိတ်ကူးအကြံကူးတွေ အများအပြားထုတ်ရရှိနိုင်လိမ့်မည်လို့ မချက်လင့်ပါဘူး။

အနုလုံလေ့လာရေးအစီအစဉ်ဖြစ်မြောက်အောင် ဆော်ဩဆောင်ရွက်ကြတဲ့ သူတွေရော၊
အဓိကအကူအညီပေးတဲ့ Japan YUAI Association (JYA) ကိုရော ကျေးဇူးတင်ကြောင်းကိုလည်း
ဖော်ပြမှတ်တမ်းတင်ပါတယ်။

ဒေါ်အောင်ဆန်းစုကြည်

NLDアウンサンスーチー議長からの親書
(右、日本語訳)

NLDメンバーの日本での研修にあたって
アウンサンスーチーよりのご挨拶

日本疫学協会のご協力を得て、MLDのメンバーであり、農業を営んでいるサン・マウンとウイン・ナインが日本の農業について勉強する機会を与えていただき、御礼申し上げます。

皆さまご存じのことと思いますが、ミャンマーは農業国であり、農業を主に生活しております。国の経済が本格的に発達するまでは、農業に頼った経済活動であり、農業生産に頼る国づくりを続けて行くこととなる、と考えています。

その意味からも、日本の発達した農業を学べることは、大変興味深いことであり、今後の我が国の農業発達のための礎になってくれることと信じています。

我が国の経済と日本の経済には大きな開きがあります。農業もまた気候の差も含め、大きな開きがあります。ですから日本で学んだ進んだ農業技術全てを、現在のミャンマーに取り入れることは、現時点では難しい事です。しかし今回二人の研修生が学んだ事をビルマに持ち帰り、次の世代につたえることで、一つの種がまかれ、いずれ大きくミャンマーのために花を咲かせてくれることと思います。それが通う二人を推薦いたしました。より多くの事を学んで帰ってくることでしょう。

何より、困っている時に救いの手を差し伸べてくださったことは、本当にありがたいことです。言葉には表せないほど感動しております。

今回のプログラムを企画、実行して下さった日本友愛協会に、心よりの感謝の意をお伝えしたいと思います。

NLD (国民民主連盟) 議長
アウンサンスーチー (サイン)

初来日・鳩山由紀夫理事長と面談



成田エクスプレスの中で。車窓から見える景色の全てが驚異だったと話してくれました



アウンサンスーチー議長からの親書を受け取る

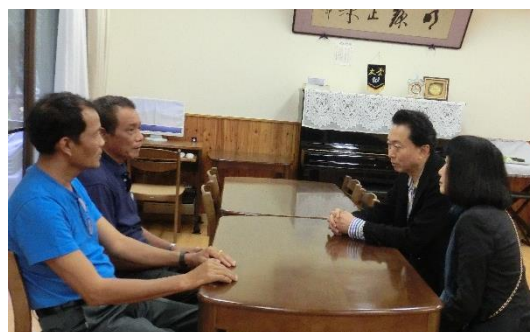


民族衣装に身を包み、正装で理事長事務所を訪問。お土産のバッグに理事長も笑顔

全国各地で研修開始



日本の海が見てみたいくて。塚本さん(写真中央)のご案内で海まで出掛けました



友愛山荘にて。鳩山由紀夫理事長夫妻と面談。2週間の予定で山荘での研修・交流が始まった



鳩山由紀夫理事長ご夫妻と山荘スタッフ一同。賑やかな記念撮影



コスモス牧場での初日。子牛をケージへ誘導。初めての経験にも関わらず、果敢に挑戦しました



上富良野の内田さん(写真両端内田ご夫妻)のお宅で、カボチャの収穫、箱詰め作業を体験



移動中の道の駅にて「日本ソバ」を初体験。上手にすすることが出来ました。日本ソバは美味しいと



農業試験場で。(写真後列左 田中義則さん。写真前列中央 西海豊顕さん)と記念撮影



農業大学を見学。白長靴に白衣、ご案内くださった先生(写真中央)と小野豪大さん(写真左端)と

理事会にて感謝の意を述べる



3ヶ月の研修を終え、友愛協会理事会に出席。研修後の感想と感謝の意が伝えられた



理事会では、率直な感想を述べた二人の研修生。通訳と滞在中のアテンドは、ビルマ学生連盟のミヤットゥーさんが大いに協力してくださった

ミャンマーからの報告



ミャンマーに帰国後、早速NLDへ報告に。友愛協会作成の写真集、各人のレポートを提出した



日本に研修に来て、本当に良かった。勉強になったし楽しかったと報告写真を送ってくれた



ウィン・ナインさんは、少しでも沢山の収穫を目指して、毎日畑で精をだしている



日本から持って帰った写真集(研修の実際、日本の農業、景色など)を熱心にながめる村の人々



友愛協会が贈呈した、実習の日々、日本の様子を収めた写真を、村の人々に説明するウィン・ナインさん



沢山のトウモロコシの収穫。日本のトウモロコシのように、粒の大きなものを作りたいと言っていた

3) 交流事業／(1)2014年友愛国際写真コンクールの開催

事業概要

- ・「友愛」「平和」「緑(環境保護)」「人と自然」をテーマに、写真コンクールを行う。
- ・近年、携帯電話、インターネットの普及に伴い、中国における写真に対する興味が増加している。日本においてもインターネットへの写真掲載は容易となり発展している。
- これらを踏まえ、植林事業において長年カウンターパートとして協力関係を続けている中華全国青年連合会(中国国際青年交流中心)との関係をこの事業を以って継続し、日中友好を築くこととする。
- ・国籍を問わず応募者を募り、友愛の理念を広め、世界平和、環境保護に対する世界の青年および成人の認識を呼び起こす契機となる。

実施内容

- ・中国国内においては、中華全国青年連合会(中国国際青年交流中心)が核となり、インターネットを利用した募集、管理を行う。
- ・日本国内においては、ポスターを作成し各大学等に掲示を依頼する。
- ・日本友愛協会ホームページ上に、コンクール開催を掲示し募集する。
- ・両国とも受付窓口は、インターネットによるものとし、中華全国青年連合会(中国国際青年交流中心)が行う。

- ・投票サイトを開設。日本語・中国語・英語にて掲載。
- ・応募締め切り後、日中両国の審査員によって、審査を行う。
- ・審査終了後日、中国(北京)において、展示会及び表彰式を行う。



配布・掲示用ポスター



機関紙『友愛』(五三一号)折り込みチラシ

募集テーマ

「友愛」「平和」「緑(環境保護)」「人と自然」

応募資格

国籍を問わず、年齢13歳以上45歳以下の者

応募規定

自作、未発表の作品をインターネットで応募すること
紙焼き等の応募は不可

期間

応募期間：2014年7月1日～9月20日
作品審査：2014年9月下旬～10月中旬
表彰式：2014年11月20日

応募総数

2014年7月1日から9月20日までの応募期間に、寄せられた作品は約1万点。

応募参加の国々及び地域

日本・中国・韓国・台湾・アメリカ・フランス・サウジアラビア・シンガポール・シリア・イラク・イラン・インドネシア・ベトナム・マレーシア・チャド・イエメン・アフガニスタン・トルクメニスタン・カザフスタン・カメルーン・パレスチナ・コンゴ・ガーナ・カタール・モーリタニア・モンゴル・バングラデシュ・ミャンマー・ナミビア・ナイジェリア・シエラレオネ・ウズベキスタン・ウクライナ・ウガンダ・など約36ヶ国から1700名の応募があった。

日本側審査員

タッド・若松 (写真家)

石渡菜々子（写真家）…表彰式参加

日本友愛協会理事

受賞作品

専門賞(芸術写真として完成度の高いものに一等から三等の賞)、友愛賞、優秀賞、友好参加賞、ネットユーザー人気賞、携帯写真賞(携帯電話で撮影したもの)等、部門毎の賞を設定し、中国側審査員5名、日本側審査員2名及び日本友愛協会理事会の厳正なる審査の結果、約30点が受賞作品に選ばれた。



中華全国青年連合会(中国国際青年交流中心)作成の冊子
表彰式時に配布された



受賞作品

*受賞作品を機関紙『友愛』(533号)の附録として発表

*本協会ホームページ上に掲載発表



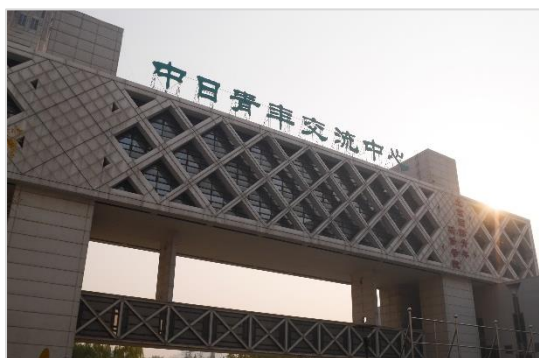
表彰式

平成 26 年 11 月 20 日(木)北京にある二十一世紀ホテルに於いて「2014 年友愛国際写真コンクール」の表彰式が開催された。

表彰式当日は、会場には木寺昌人在中国特命全権大使、共青团中央委員会傳振邦書記をはじめとする来賓が出席、祝辞を述べた。会場では中国国際青年交流中心スタッフ作成の「友愛との歴史」と題する映像が流され、植林活動を始め永年に亘る交流の歴史が紹介された。

各賞及び賞金

専門賞	1等賞 (1名)	6,000 元 × 1名	= 6,000 元
	2等賞 (3名)	3,000 元 × 3名	= 9,000 元
	3等賞 (5名)	2,000 元 × 5名	= 10,000 元
	優秀賞 (10名)	500 元 × 10名	= 5,000 元
友愛賞	2名	5,000 元 × 2名	= 10,000 元
ネット人気賞	1等賞 (1名)	3,000 元 × 1名	= 3,000 元
	2等賞 (3名)	1,000 元 × 3名	= 3,000 元
	3等賞 (5名)	500 元 × 5名	= 2,500 元
携帯賞	クリエーション賞 (30名)	100 元 × 30名	= 3,000 元
	感動賞 (30名)	100 元 × 30名	= 3,000 元
優秀組織賞	1団体	3,000 元 × 1団体	= 3,000 元
友好参与賞	13名		賞品
金額計 57,500 元 (1 元 ≒ 19 円 約 1,100,000 円)			



日中青年交流を記念して建てられた交流記念館。表彰式の会場となった二十一世紀ホテルはこの一部



共青团中央委員会傳振邦書記(写真右)と鳩山由紀夫理事長が固い握手を

表彰式及び展示会場風景



会場の至る所に「友愛国際写真コンクール表彰式」を知らせる立て看板が置かれている



展示会場に飾られた作品の数々。パネル展示の他、イーゼルにも多くの作品を展示した



表彰式会場に隣接した展示会場には、立派なパネルが設置されおよそ150点の作品が展示された



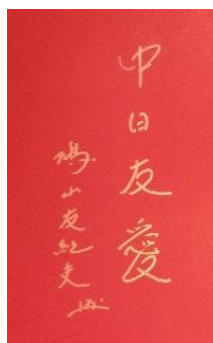
「友愛賞」受賞者の李卓さん(写真右)と李雨川さん(写真左)に鳩山由紀夫理事長から賞金を授与



第1位受賞者の陳文欽さん(写真右)と作品についての解説を聞く鳩山由紀夫理事長と傳振邦書記



表彰式会場前で、求めに応じサインをする鳩山由紀夫理事長。気さくな人柄が大人気である



花押も添えて、鳩山由紀夫理事長の揮毫



鳩山理事長が表彰式の壇上から降りた途端、一緒に写真を撮りたい学生に囲まれてもみくちゃに

2014 年友愛国際写真コンクール 総括

応募作品はすべて素晴らしく、芸術性もあり、大いに見応えのあるものでした。運営、実施にあたっては中国国際青年交流中心に、多大な協力を得ました。とくに表彰式の開催、設営は見事で、本当に頑張ってくださったと感謝に堪えません。しかし残念ながら、日本からの応募が少なく、次年度は日本国内にも強力に発信し、応募を期す予定です。

交流事業／(2)ベトナムへの車椅子贈呈プロジェクト

鳩山由紀夫理事長がベトナムハノイ市にあるプックラム国際総合病院を訪問した際、枯葉剤の影響で、障害を負ってしまった子供たちのハンディを軽減するための車椅子が、著しく不足していることを知り、日本友愛協会として出来ることをとの考えから、車椅子を贈るプロジェクトを起案、理事会にて承認され、本年度事業として実施された。

車椅子は50台用意され、船便にてハノイに送られた。

それぞれの車いすに、本協会のロゴマーク及び事業を共同で行った一般財団法人東アジア共同体研究所の名称の入ったステッカーを貼って贈呈した。

なお、贈呈式は平成26年9月14日、プックラム総合病院にて行われた。



壇上に整列した車椅子。
一台一台に本協会の名称・
ロゴマークのステッカー
が貼られている



*このプロジェクトは、アビリティーズ・ケアネット社の協力を得て実施された。



贈呈式の際、ベトナム共産党ズン中央宣伝局社会部長より、感謝状が贈られた。



子供たちは、贈られた車椅子に早速座って、笑顔でその乗り心地を試していた。
多くの親御さんたちも嬉しそうにみまもっていた。

交流事業／(3)交流会議開催

①中国国際青年交流中心

7月25日(金) 孫俊波主任一行

鳩山会館見学

歓迎昼食会開催

次年度事業打ち合わせ

友愛植林活動の中国側窓口として、永年に亘り交流を続け、友好関係を築いている中国国際青年交流中心より、孫俊波主任が来日し、今後の事業展開、友好関係の継続と促進について話し合いが行われた。



鳩山会館のテラスで、活発な意見交換がおこなわれた



鳩山一郎先生の足跡など、熱心に見学。質問も活発に



鳩山会館を背に記念撮影。美しい建物と庭に、賛嘆の声が

②北京理工大学／日本言語文学部

7月29日(火) 周晨亮学部長

鳩山会館見学

理事長面談

歓迎昼食会開催

次年度事業検討打ち合わせ

3月の友愛植林訪中の際(3月13日)、青年交流として訪問した北京理工大学(北京市内大学第三位)において講演の時間をいただき、「日本友愛協会について」(羽中田担当)「現代日本大学生気質」(川手祥右、高橋佳大担当)と二時間にわたって講演を行った。この講演が生徒・教授に好評だったことから、機会を得て次もお願いしたいとの要請が周学部長からあった。

次年度事業(情報発信事業及び国際交流事業)として実施することを検討。

理事会において、次年度事業として実施することが決まった。

この際、時間的に可能であれば、鳩山由紀夫理事長の講演も実施する方向で予定を進めることとなった。尚、鳩山由紀夫理事長の講演に際しては、北京理工大学のみならず、北京の大学数校に参加を呼び掛け開催する予定である。



鳩山由紀夫理事長と記念撮影。周晨亮学部長は少し照れながらも、満面の笑顔で納まった



川手正一郎常務理事の案内で鳩山会館を見学。日本の歴史についての造詣の深さには驚かされた

③中華全国青年連合会

2月3日(火) 王慶副秘書長一行

鳩山会館見学

懇親食事会開催

次年度事業について打ち合わせ

永年に亘り、植林活動のカウンターパートとして友好関係にある中華全国青年連合会と、次年度の事業についても協力、連携していくことを確認した。本年度行った新たな事業「友愛国際写真コンクール」の成功は、本協会、中華全国青年連合会双方とも高く評価しており、次年度の活動に意欲を高めるとともに、期待も高まった。



鳩山会館の展示室は、とても興味深いと熱心に見学。長田監事の説明に耳を傾けていた



鳩山由紀夫理事長、川手正一郎常務理事と懇親昼食会の席が設けられた。皆で友好を願って乾杯



空は晴れ渡り、暖かい陽ざしが注いでいた。
美しい、素晴らしいを連発する一行の望みでこの位置

交流事業／(4)パオ(ゲル)の展示継続・資料展示

本協会は、鳩山由紀夫理事長より寄贈を受けたパオを、国際交流事業の一環として友愛山荘敷地内に展示し、外国文化に触れる機会を提供することとし、平成25年8月8日より展示を行っている。

パオはモンゴル遊牧民の移動住居である。実際に現地で使用される物を展示していることから、生活の実際を垣間見ることができる。

また本年度より併せて、資料としての衣類(民族衣装)、家具などの展示を開始した。

大学生のゼミ合宿の際など、グループ毎のミーティングをパオの中で行うなど、パオが創り出す空間が人気を呼んでいる。

本協会として国際交流の実態を示すよう下記の趣意書をパオの内部、友愛山荘玄関ホールなどに置き、宣伝に努めている。

《趣意》

国際交流の一環として包(パオ)を日本の多くの方にご高覧いただき、外国文化に触れ、相互理解の一助になれば幸いと存じ、軽井沢友愛山荘に展示します。



友愛山荘の庭、テニスコート寄りに
二基のパオを設置、展示を続けている



パオの一基は、資料展示室として設営



手入れの甲斐もあり、パオは雪の重さにも耐えた

パオの前で馬頭琴の演奏会開催 平成26年9月22日(木)

パオの展示に伴い、外国文化を伝える国際交流事業として、モンゴルの民族楽器「馬頭琴」の演奏会を開催した。

演奏会には地元の方々、宿泊の方々等多くの来場者があり、友愛山荘の芝生が特設会場となった。

鳩山由紀夫理事長のお客様である、ジョセフ・ジャクソンさん(故マイケル・ジャクソンさんの父)も来場された。

本協会の国際交流活動を紹介する、良い機会となった。



馬頭琴奏者ウルゲンさんは、当協会の趣旨に賛同し、快く演奏会を引き受けてくださった



ジョセフ・ジャクソンさんの登場で、会場に集まった人たちから歓声が上がった

〈4〉日中緑化交流基金による中国植林事業

(定款第4条第2号、第4号に基づく事業)

事業概要

日中緑化交流基金を活用し、中国における植林活動を行う。環境保全に貢献し日中友好を目指す。併せて交流の機会を設け広く友愛の理念を伝える機会を得る。実施においては、中華全国青年連合会(中国国際青年交流中心)を中国側カウンターパートとし、日本からは広く募集をかけ参加者を募り、訪中団を結成し中国に派遣する。

《26年度事業》

- 1) 第3期日中青年遼寧省錦州市生態緑化モデル林
第1期日中青年遼寧省盤錦市生態緑化モデル林
第3期日中青年臨汾市生態緑化事業
*上記3プロジェクトの起工式、植林訪中団の派遣は、土壌凍結等の都合から27年7月に実施予定している。
*本事業報告書では、26年4月に実施した第25次植林訪中(平成25年度事業)についての詳細を報告する。
- 2) 第25次植林訪中団派遣・起工式実施
(期 間) 平成26年4月18日～23日
(植林地) 遼寧省錦州市、山西省臨汾市
(中国側カウンターパート) 中華全国青年連合会、遼寧省錦州市青年連合会、
山西省臨汾市青年連合会、
(訪中団員) 名誉団長 鳩山由紀夫理事長
団長 川手正一郎常務理事
副団長 戸澤英典(東北大学大学院教授)
団員 田中佐知子(弁護士)
橋本誠浩(東北大学学生、中国精華大学留学中)
李 慶達(東北大学学生)
川手祥右(東京工芸大学3年生)
高橋佳大(城西大学3年生)
羽中田元美(事務局長補佐)
原 俊子(事務局員)

- ◆日中青年遼寧省錦州市生態緑化モデル林
(日中緑化交流基金からの助成金) 1,680 万円
(植林面積) 120 ヘクタール
(植樹数) 100,000 本
(植樹種) 碧玉ポプラ

実施の成果

元来、現地には林、雑木林等緑地が少なく、荒地が多い状況であった。また樹種の分布が不均一であり、樹木そのものの老化も進んでいる。その影響で、水源の保有水量の降下、水質の悪化も生じていた。

本事業の完成により、このような自然環境の状態を考え、流量の確保、水質の改善が行われた結果、現地の生態環境の改善につながる結果となった。

また、砂漠化の抑制、土壌流失の軽減、防護機能・水源涵養機能の向上にもつながることが期待される。

さらに、現地においての植樹、ボランティアの参加など実際の日中交流が行われることで、日中青年交流の促進に大きな役割を果たしている。このことはひいては、日中両国の友情、世々代々に伝わる友好の増進に大いに寄与することであり、日中友好促進の重要な意義を果たしているといえる。

- ◆日中青年臨汾市生態緑化事業
(日中緑化交流基金からの助成金) 1,340 万円
(植林面積) 95 ヘクタール
(植樹数) 313,500 本
(植樹種) 側柏(コノテガシワ)

実施の成果

事業の実施は汾河流域の水土流失の整備に対して大いに役立っている。さらに地域の生態バランスを維持し、周辺住民の生存環境を改善することができた。同時に、日中青年の交流を促し、日中両国の友情と世代友好を深めるための積極的な役割を果たしている。

なお、日中緑化交流基金による植林面積は、65,000 ヘクタール に及ぶ

参 考

東京 23 区面積 62,000 ヘクタール

内日本友愛協会が担当実施した面積：3,300 ヘクタール

文京区・千代田区・中央区の面積に匹敵

遼寧省錦州市 起工式



鳩山由紀夫理事長が初めて現場に立った記念すべき起工式。
遼寧省錦州市の植林現場で挨拶する鳩山由紀夫名誉団長。
「ニイハオ」との呼びかけに大きな拍手がわいた



全青連本部入口に掲げられた歓迎の電光掲示板。この熱烈歓迎から始まって終始熱烈歓迎を受けた



北京の全青連本部を訪問。中華全国青年連合会／賀軍科首席（写真右端）より感謝状を授与された



全青連本部にて、関係者全員で記念撮影。十数年に亘る信頼と友情がこの日を創り上げた



遼寧省錦州市現場に建てられた記念碑。「母なる河を守る」「日本友愛協会」の文字も刻まれている



植樹したポプラに、思いを込めて水をやる。大きく育ち、緑の林となる日を夢みて信じて



名誉団長はスコップを手に、目標10本を目指して植樹開始。川手団長と力を合わせて共同作業



李さん、戸澤副団長、橋本さん(写真右から)の三人で師弟植樹。広がる地平線は、未来へと続く



ボランティアで参加の陸軍学校の少年達とも一緒に植樹。時間の最後まで頑張って計7本を達成



歓迎の宴で挨拶する鳩山由紀夫名誉団長。「ここ錦州に来て良かった！」と植林事業への想いを

山西省臨汾市起工式



植林地現場
現状は赤土を呈している



山西省臨汾市での記念式典。この日から後ろに迫る山々の頂上まで、植樹が進み緑の山となる



高さ50センチ程の苗を植えた。既に植樹されている苗もあり時間差植樹



臨汾市の記念碑を囲んで団員一同記念撮影。十年後には、この碑が見えなくなるほどに木が生い茂る

〈5〉友愛ドイツ歌曲(リート)コンクール開催事業

(定款第4条第2号、第5号に基づく事業)

事業概要

青少年及び広く一般の音楽文化に対する理解を深め、ドイツ歌曲を学ぶ声楽家の育成を目指し、声楽家としての活躍の場を得る機会を提供する。併せて音楽文化を以て相互尊重・相互理解・相互扶助の友愛理念を伝えるべく、本コンクールを開催する。国際交流事業実践のため、姉妹団体であるオーストリア勤労青年連盟と協力し、音楽技能の向上、国際的友愛理念の普及を目指し、本コンクールの優勝者をウィーン派遣する。また、今年度からドイツ歌曲の普及を目的とする「ドイツ歌曲普及協会」と協力して開催することとし、一層の音楽文化、ドイツ歌曲の普及を目指すものである。

(名称)

平成26年度 文部科学大臣賞 第25回友愛ドイツ歌曲(リート)コンクール

(日程・会場)

第一次予選	10月22日(水)	文京シビック	小ホール
第二次予選	10月30日(木)	同	上
本選会	12月12日(金)	同	上

(実行委員会)

実行委員長：島崎照代 運営統括責任者：羽中田元美

実行委員：原俊子 稲見裕美 稲垣朋子 榎本みさ 岩井和子 松村衣梨

橋谷田智史 佐藤慈成 中林真奈 納谷結花 柏井優 藤井玲南

ドイツ歌曲普及協会より 城守香 森川由美子 矢口喜恵

(関係機関)

共催：一般財団法人ドイツ歌曲普及協会

協力：オーストリア勤労青年連盟(ÖJAB)

後援：文部科学省、外務省、オーストリア大使館、ドイツ連邦共和国大使館、
日唄文化協会、公益社団法人日本演奏連盟

協賛：株式会社音楽之友社、株式会社河合楽器製作所、

株式会社ヤマハミュージックジャパン、日本リハルト・シュトラウス協会

(副 賞)

第一位 賞金 20 万円、第二位 賞金 20 万円、第三位 賞金 10 万円、
奨励賞 賞金 5 万円(学生の部)、日本歌曲賞 賞金 5 万円、
優秀共演者賞 賞金 5 万円、聴衆者賞 賞金 5 万円

日本 R. シュトラウス協会賞 賞金 5 万円、シューベルト歌曲賞 賞金 5 万円
その他第 1 位受賞者には、副賞として平成 27 年 6 月中旬ウィーンにて実施される
オーストリア勤労青年連盟 (ÖJAB) 主催の音楽会出演。また、ウィーンまでの
往復航空券を当協会が提供し、オーストリア勤労青年連盟 (ÖJAB) の協力を
得て 8 日間のウィーン研修滞在を提供する。

(参加者募集・選考経過)

募集案内は平成 26 年 6 月より開始。音楽学校への案内状及び募集要項の送付
関係各位への案内、専門誌への広告掲載等を行った。

応募受付期間は、平成 26 年 9 月 12 日(金)～9 月 26 日(金)とした。

応募者総数 計 57 名 (一般 51 名、学生 6 名)

- ・ 第一次予選出場者：56 名 (一般 50 名、学生 6 名)
[ソプラノ 36 名、メゾソプラノ 7 名、カウンターテナー 1 名、
テノール 5 名、バリトン 6 名、バスバリトン 1 名]
- ・ 第二次予選出場者：31 名 (一般 28 名、学生 3 名)
[ソプラノ 16 名、メゾソプラノ 6 名、カウンターテナー 1 名、
テノール 5 名、バリトン 2 名、バスバリトン 1 名]
- ・ 本選会出場者：9 名 (一般 7 名、学生 2 名)
[ソプラノ 3 名、メゾソプラノ 1 名、カウンターテナー 1 名、
テノール 3 名、バリトン 1 名]

(本選会入場者数) 約 250 名

(審査員)

小松英典	ドイツ連邦共和国認定終身教授 (2 次、本選会)
高橋啓三	東京音楽大学教授 (1 次、2 次、本選会)
寺谷千枝子	東京藝術大学教授 (1 次、2 次、本選会)
菅英三子	東京藝術大学准教授 (1 次、2 次、本選会)
三ツ石潤司	武蔵野音楽大学教授 (本選会)
本島阿佐子	国立音楽大学准教授 (1 次、2 次、本選会)
ヨシア・バルチュ	武蔵野音楽大学講師・ドイツ語発音法 (1 次、2 次、本選会)
島崎照代	日本友愛協会参与・実行委員長 (1 次、2 次、本選会)

(結 果)

- ・第1位 照屋篤紀 (テノール)
文部科学大臣賞 武蔵野音楽大学大学院修士課程2年在学中
聴衆者賞
日本 R.シュトラウス協会賞
- ・第2位 中嶋俊晴 (カウンターテナー)
日本歌曲賞 東京藝術大学大学院2年、
シュューベルト歌曲賞 ウィーン国立音楽大学大学院2年在学中
- ・第3位 杉山由紀 (メゾソプラノ)
日本歌曲賞 武蔵野音楽大学大学院修了
- ・奨励賞 (学生) 福田夕華 (ソプラノ)
東京藝術大学音楽学部声楽科3年在学中
- ・優秀共演者賞 田中悠一郎
ドイツ・カールスルーエ音楽大学大学院
リート科修了
- ・入 選 吉田志門 (テノール)
東京藝術大学音楽学部声楽科4年在学中
原 千裕 (ソプラノ)
東京藝術大学大学院音楽研究科声楽専攻
独唱科修了
菅谷公博 (バリトン)
ドイツ・カールスルーエ音楽大学大学院
声楽科修了
橘田有美 (ソプラノ)
東京藝術大学大学院音楽研究科修士課程修了
伊藤達人 (テノール)
東京藝術大学大学院修士課程修了

※日本 R.シュトラウス協会賞は、対象候補者が5名。

※シュューベルト歌曲賞は対象候補者が1名だったが、賞に価するということで、受賞に至った。

(総括)

本年度の応募者数は57名(一般51名、学生6名)。前年度(45名)より増加した。

学生の応募者が少なかったのは、全国学生音楽コンクールなど他のコンクールと開期が重なったためと思われる。

今回は一次、二次、本選会とも文京シビック小ホールにて行われた。シビックホールは例年予選で使っているが、本選会は初めての試みであった。

観客が入った状態での音響効果など多少不安があったが、会場自体は使いやすくスタッフも滞りなく運営ができた。本選会来場者数は客席もほとんど埋まった状況で、盛況だったと言える。

審査結果は本選終了後、会場に於いて発表した。聴衆者賞は、例年どおり来場者(聴衆)の投票によって選考された。審査員の審議の時間を利用して投票結果の集計を即時会場にて行い、最高得点者を聴衆者賞受賞者として発表した。

受賞者は再び舞台に立ちアンコール演奏を行った。

発表は井上和子評議員長の挨拶の後、鳩山由紀夫理事長が挨拶。続いて結果発表、賞状授与を鳩山由紀夫理事長及び、川手正一郎常務理事が行った。

審査においては、発音・解釈・表現が重要な要素となる。シューベルト歌曲賞においては、対象者が一人であったが、受賞するに相応しい演奏だったため、審議の結果、受賞に至った。今回、日本歌曲賞の1位が同点2名となった。審議の結果、両名とも受賞に価するとのことで2名に授与することとした。

表彰式に引き続き、島崎照代実行委員長から審査員の紹介及び審査員を代表して講評を行った。





奨励賞(学生の部) 福田夕華さん



優秀共演者賞 田中悠一郎さん



大盛況の会場風景。鳩山由紀夫理事長、井上和子評議員長、川手正一郎常務理事も始まりから最後の出演者まで、熱心に聞き入って、歌声を楽しんでいた。



照屋篤紀さんへ聴衆者賞を授与し、握手を交わす川手正一郎常務理事



「皆さんの情熱が伝わる素晴らしい演奏です」と鳩山由紀夫理事長挨拶



聴衆者賞発表。鳩山由紀夫理事長と
井上和子評議員長の二人で。
「もう一度是非聞きたい歌声です」と



審査員の先生方。出演者の熱演に採点では悩ま
されたが、表彰式では全員が笑顔で臨んだ



出演者・共演者・審査員の先生方、関係各位揃って記念撮影
鳩山由紀夫理事長、井上和子評議員長、川手正一郎常務理事を囲んで、安堵と喜びの気持ち
が全員を笑顔に。審査員の先生方も満面の笑顔。日本R・シュトラウス協会からは田辺秀樹常
務理事、ドイツ歌曲普及協会からは内田由利子理事長がご出席された

〈6〉他団体への協力事業

(定款第4条第2号、第7号に基づく事業)

1) 鳩山会館への協力

- ・同会館パンフレットを東京事務局、軽井沢友愛山荘にて配布
- ・館長／鳩山由紀夫理事長、支配人／長田正太郎監事

2) 鳩山友愛塾への協力

- ・鳩山友愛塾修了生の会開催時に事務局が協力

3) 一般財団法人 人間塾への協力

4) 一般財団法人 東アジア共同体研究所への協力

- ・軽井沢友愛山荘利用にあたって、同法人会員に割引価格提供

5) 核兵器廃絶・平和建設国民会議（K A K K I N）への協力

- ・同会議会員として参加する。

6) 一般財団法人尾崎行雄記念財団への協力

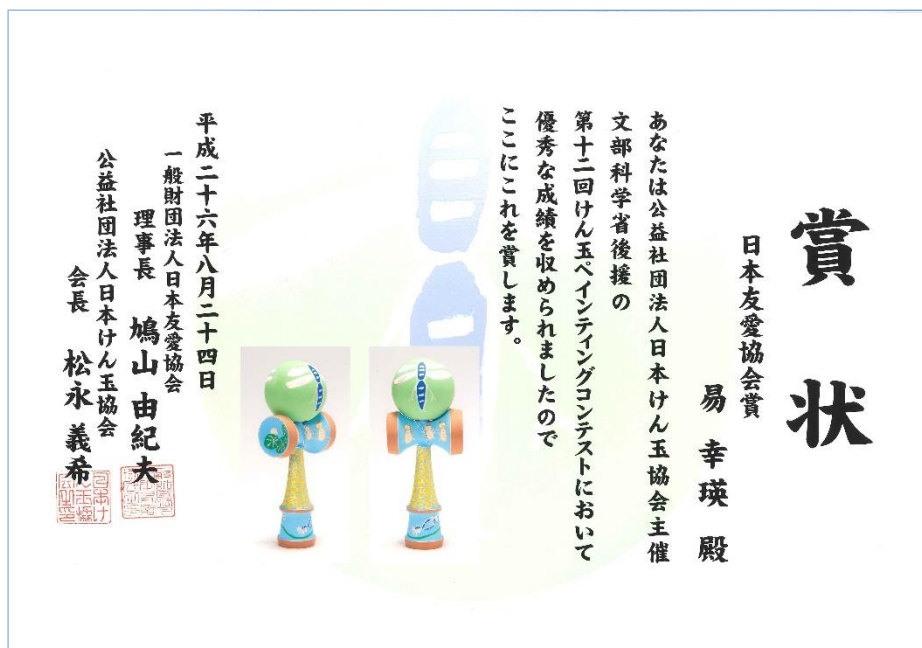
- ・同財団会員として参加する。
- ・鳩山由紀夫理事長が同財団副会長を務める。
- ・鳩山邦夫副理事長が同財団顧問を務める。
- ・谷藤悦史評議員が同財団評議員、萩原直三評議員が同財団理事を務める。

7) 公益財団法人日本補助犬協会への協力

- ・東京事務局及び友愛山荘内に募金箱を設置。
- ・鳩山由紀夫理事長が同協会の名誉顧問を務める。

8) 一般財団法人日本けん玉協会への協力

・同協会主催「第12回 けん玉ペインティングコンテスト」に「日本友愛協会賞」および「団体賞」を提供し、賞金として総額6万4千円を拠出した。



日本友愛協会賞の賞状 受賞者の作品が印刷されている。
小学校二年生とは思えない発想が、大きく評価されたトンボがヤゴ
から成虫になるまでを描いている



日本友愛協会から川手正一郎常務理事が出席。
日本友愛協会賞の賞状を授与した

Ⅳ 業務執行

〈1〉理事会開催

第26回臨時理事会

開催日：平成26年4月10日（木）

場 所：友愛サロン

議 事：職務執行報告、日中緑化交流事業、友愛山荘事業

第27回通常理事会

開催日：平成26年6月5日（木）

場 所：友愛サロン

議 事：平成25年度事業報告・計算書類
平成25年度公益目的支出計画実施報告

第28回臨時理事会

開催日：平成26年7月30日（水）

場 所：友愛サロン

議 事：職務執行報告

第29回臨時理事会

開催日：平成26年9月26（金）

場 所：友愛サロン

議 事：職務執行報告、ミャンマー指導者育成プロジェクト、友愛山荘事業、
2014年友愛国際写真コンクール、第25回友愛ドイツ歌曲(リート)コン
クール

第30回臨時理事会

開催日：平成26年10月23日（木）

場 所：友愛サロン

議 事：職務執行報告

第31回臨時理事会

開催日：平成26年11月13日(木)

場 所：友愛サロン

議 事：職務執行報告、ミャンマー指導者育成プロジェクト、2014年友愛国際写真コンクール、第25回友愛ドイツ歌曲(リート)コンクール

第32回臨時理事会

開催日：平成26年12月18日(木)

場 所：友愛サロン

議 事：職務執行報告、2014年友愛国際写真コンクール、第25回友愛ドイツ歌曲(リート)コンクール

第33回臨時理事会

開催日：平成27年1月22日(木)

場 所：友愛サロン

議 事：職務執行報告、第25回友愛ドイツ歌曲(リート)コンクール、友愛山荘事業

第34回臨時理事会

開催日：平成27年2月19日(木)

場 所：友愛サロン

議 事：職務執行報告、平成27年度事業計画案、予算案等

第35回通常理事会

開催日：平成27年3月26日(木)

場 所：友愛サロン

議 事：平成27年度事業計画、平成27年度予算

〈2〉評議員会開催

第8回定時評議員会

開催日：平成26年6月5日(木)

場 所：友愛サロン

議 事：平成25年度事業報告、計算書類
平成25年度公益目的支出計算実施報告

第9回臨時評議員会

開催日：平成27年3月26日(木)

場 所：友愛サロン

議 事：平成27年度事業計画、平成27年度予算
任期満了に伴う理事選任の件